

ろっかしよむら じょうもんどぐう 六ヶ所村の縄文土偶

1 土偶とは

土偶は縄文時代に作られた土製の人形です。乳房やくびれがあり、女性をかたどったものと言われています。(男性と思われる土偶も数点あります。) 祈禱や呪術に使った、ひとがた(身代わり)にした等、様々な説があります。

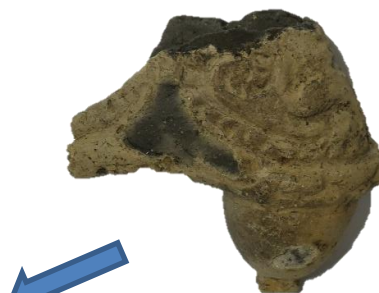
六ヶ所村の土偶は縄文時代中期(約4,500年前)から作られるようになりました。はじめは顔や胴体、腕のみで十字型に作られています。徐々に時代がすすむにつれて脚が生え、精巧な文様が描かれるようになりました。



2 儀式に使われた!?六ヶ所村の遮光器土偶

遮光器土偶は主に縄文時代晩期に作られ、目にあたる部分がイヌイットやエスキモーが雪中行動する際に着用する遮光器(スノーゴーグル)のような形をしていることからこの名前がつけられました。(目の誇張表現と考えられています。)

六ヶ所村では、上尾駮(1)遺跡 C 地区の共同墓地から、鼻曲がり土面やヒスイと一緒に遮光器土偶の足2点が出土しています。土面を付けた祈禱師・呪い師がいて、「カミ様」の仲介者となり、豊かな実りを祈り、人々の病気やけがが早く治るようななどの儀式や祭りを行っていたと考えられます。



遮光器土偶の左足



鼻曲がり土面



ヒスイと玉の首飾り